

第418号

発行  
浄土真宗  
心光寺  
奥原曇龍  
倉敷市早高426  
☎(086) 420-1311



# 深まりゆく秋



カット：本多 紘子

秋もようやく深まり、日も短くなって散りゆく木の葉に寂しさを感  
じる今日この頃です。皆様、如何お過ごしでしょうか。

お寺の周りの水田にたわわに実っていた稲穂も、10月半ばから農家  
の方がコンバインで収穫されました。稲を刈り取られた農地が裸とな  
り、景色が一変するのは毎年のことですが、今年は多くの親しい人が  
去り逝ったので心に空虚さを深く感じています。

お寺の屋根を住処としていた沢山の雀たちが今年は見当たらずに思  
っていたら、テレビで雀が減り「絶滅危惧種」に指定されたという放  
送を見て、愚僧は驚きました。稲穂を食べられないように、農家の方  
が雀脅しを工夫して、案山子を立てて追い払っていたのに、雀がいな  
くなる、自然の生態系も壊れるのではと心配です。

人間が、人間だけを中心に考えて、この世を便利で豊かな世の中に  
していこうとすればするだけ、この地球上が病んでいき、人間の身も  
心も病みます。人間が「絶滅危惧種」の仲間入りも、早いかも…。

岡山県は果物や野菜の宝庫と言われるぐらい、イチゴやトマトや桃  
やブドウやミカンや柿などを生産している農家が沢山あります。お寺  
のすぐ隣にはイチゴ農園もあります。愚僧は30年前から果物や野菜に

\*心の悩み・信仰の相談は月曜日から木曜日の午前中に気楽にお電話下さい。

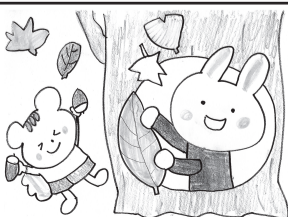
対して少し違和感を感じるようになりました。それは果物や野菜の持  
つ苦みや渋みや酸味を少なくして、甘みを高めるために糖度の多い品  
種改良を奨め、一般消費者や特に子供たちに甘いものを食べさせて売  
ることに成功したのです。甘いと言うことは果物や野菜に害虫が集ま  
りやすいので、農家の方たちは農薬（農毒）を散布して害虫を殺しま  
すが、きつい農薬を散布した農家の方が身体に障害を起こし、死んだ  
という話を聞いて愕然としました。また糖分ばかり過度に摂取した子  
供たちも、糖尿病になりやすく長生きが出来ませんよ。

人間にとって「五感を研ぎ澄ませます」とか「第六感が働く」という諺  
がありますが、仏教の大切な心の働きを説明したものです。ものが美  
しく見えたり、音や声が気持ちよく聞こえたり、臭いの好き嫌い、味  
の善し悪し、暑い寒いや硬いや柔らかいは、それぞれの人の感覚であ  
り、これを五感と呼びます。五感とは、眼・耳・鼻・舌・身（皮膚）  
を通して生じる五つの感覚のことです。視覚・聴覚・嗅覚・味覚・触  
覚であり、人間の感覚の総称を言います。六感とは心であり意識のこと  
ですが、知覚と表現され知り覚ることです。眼・耳・鼻・舌・身の五  
つの感覚器官への刺激を通じてもたらされた情報をもとに、その対象  
の性質・形態・関係を認識するはたらきなので、それぞれの人の受け  
止め方や感じ方が違ってきます。ただ今日一日を何となく過ごせば好  
いと思う方もあれば、仏教を勉強して、人間の「生きる意味」や「死  
に行く意味」を真剣に考えたいと思う方もあります。

人間とは、インドでマヌシャと呼ばれ、よく考えて行動するものと  
いう意味です。人は人を支え合いながら、お互いの間を大切にするか  
ら、人間と呼ぶということです。自分の利益だけを追求し、他人を困  
らせるのが平気な人は人間とは呼ばれないということです。

戦争が無くならないのも、自分の利益だけを追求する企業が増えて  
きたからかな。人間中心の世界は、あらゆる生物に支えられている感  
謝が薄れ、人間自身が滅びの道を歩んでいるよ。合掌（奥原 曇龍）

『人間は人間だけで生きられぬ いのち戴き生かされ生きる』 どんりゅう



カット：府川 綾

## ともしび説法

日時・十一月 三日「日曜日」 午後一時から四時頃まで。  
秋の報恩講・永代経法要（儀式と仏教講演）  
場所・倉敷市早高426 新本堂 電話086-420-1311

ともしびを読みたい方、  
お寺についてもっと知りたい方

心光寺 倉敷 検索



# お釈迦様ものがたり 97

お釈迦様は生まれたら人は必ず死ぬ、恐れ悲しむことでは無いと「法鏡」の教えを説かれ、さらに比丘(僧)たちに種々の説法をされました。

講義が終わると、ワツジ国の首都で商都として富み栄えていたヴェーサリの郊外であるアンバパーリー園に行った。この園林は、この町の遊女アンバパーリーの所有に属してました。彼女はお釈迦様の一行が自分の広大で静かな林園に來られたと聞き、美しい乗り物に乗ってお釈迦様の所に行き、法話を聞いてから、翌日の食事に招待しました。

この地方の貴族リッチャビー人たちも、お釈迦様の滞在を聞き、贅沢な着物を着け、美しい乗り物に乗って、アンバパーリー園にやってきました。あまり急いでいたので、帰途にあるアンバパーリー一行の乗り物と衝突するほどでありました。

この遊女がすでに翌日のお釈迦様の招待を約束したと聞き、リッチャビー人たちは彼女に、その供養の権利を自分たちに譲るよう頼んだが、彼女は承知しませんでした。

元来当時のインドの遊女は、王侯貴族や豪商を相手とするほどの権力者で、その地位も高く、豪華な住居と多くの使用人を持っていた。中でもアンバパーリーはその美貌と教養のために、当時のインドでは最も有名な遊女であり、ヴェーサリーの都城はこの遊女によって反映したほどでありました。

美しい遊女が都市を繁栄させるのか、繁栄している都市に遊女が集まるのか、都市には遊女が必要とされました。

翌日お釈迦様の一行は、この遊女の招待を受け、彼女のために種々の説法をされました。彼女が深く信仰に入り、アンバパーリー園を仏教団のために寄贈しました。のちに彼女は出家して比丘尼(女性の僧)になったと言われています。合掌 (奥原曇龍)

落ち葉散る寺に集うよ親鸞忌 心の隙間を照らすともしび 田辺多恵子



10月6日 総代さんたちによる仏具みがき

## ともしび法話

紅葉の季節、秋の爽やかな風が吹いていますが、皆様お元気で過ごすごですか。

お寺では、11月3日(日)に秋の報恩講法要が開催されます。親鸞聖人を偲びながら、人生を深める行事です。皆様、気軽に お寺に足を運んで参加して下さい。

心光寺新坊守(ぼうもり) 府川 綾

11月3日(日)に秋の報恩講法要があり是非とも参詣させて頂きます。厳粛な法要儀式と仏教講演、どちらも身が引き締まり心に光を与える寺として感謝しています。

倉敷市西中新田 古谷 洋子

暮秋を迎え、ようやく冷気に肌寒さを感じるこの頃です。地球温暖化で台風や大雨で河川の氾濫や、また大地震の災害と心配は耐えませんが、今・今を生きよう。

倉敷市連島町矢柄 徳田 勉

人はいつどんな形で生命を終えるかも知れませんが、いつ死んでも好いように、いつまで生きても好いように、説法を聞いて「何があっても大丈夫」と生き抜きたい。

倉敷市西富井 網本 健二

## ともしび説法

日時・十一月 三日「日曜日」 午後一時から四時頃まで。

秋の報恩講・永代経法要 (儀式と仏教講演)

場所・倉敷市早高四二六 心光寺(しんこうじ) 本堂にて

電話・(086)420-1311 駐車場有り

(宗派を問わず、はじめに人生を考えているあなたに参加していただきたいのです。)

○ともしび説法・お寺の行事予定

十二月 十日(火)・午後一時半から四時まで・早高の本堂。

一月 一日(水)・午後一時半から四時まで・早高の本堂。

二月 五日(水)・午後一時半から四時まで・早高の本堂。

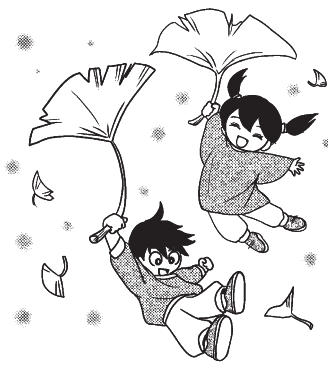
☆ともしび会は、月額五百円の会費制です。(賛助会員募集中)。

ともしび新聞を毎月発行し続けていますが、たくさんの方が喜びます。賛助会員になって下さる方があれば嬉しく思います。会員には、ともしびを郵送させていただきます。(お電話下さい)



## ともしびの詩

暮秋はなぜか寂しい心の隙間に冷たい風がふく木の葉が大地に散るよう親しい人 大切な人がこの世からサヨナラしていくみんなデコボコ道を歩み泣き 笑いながら今を生きる



カット:吉岡美枝

浄土真宗の宗祖は親鸞聖人(しんらんしょうにん)です。お葬式の時にあわてて葬儀屋さんを紹介してもらうより、自分でお寺は決めよう。

〒710-0022 倉敷市早高426

浄土真宗(じょうどしんしゅう)心光寺  
TEL(086)420-1311 FAX 420-1322  
携帯電話 (090)-2297-2504

★『ともしび』の毎月発行も、お陰様で「418号」となりました。心光寺は、誰でも気軽に來られる「心の雨宿りのお寺」を目標に頑張っています。11月3日の秋の法要には倉敷駅西ビル横の駐車場に12時10分、茶屋町駅西口に12時30分にお寺より自動車でお迎えに行きます。自動車の送迎が必要な方は心光寺までご連絡下さい。合掌 総代長 本家豊彦